

# 彩湖

だより

SAIKO



## 冬に備える

秋の実りの時を経て、寒い冬を迎えます。でも、草や木々は来春のために、もうすでに新しい芽を作り終えています。しかも、防寒対策もちゃんと施しているのには驚きです。木の幹は、年輪でも分かるように、細胞を夏型から冬型に作り変え、そして、新芽を守りながら「寒さよ、いつでも来い。」と堂々と構えているのには、感動すら覚えます。

私たちの冬の生活を振り返って、寒さに対する構えなり姿勢に凛としたものが欠けてはいはしないでしょうか。大自然を偉大な教師として冬を迎えたいものです。



ムラサキシキブ



ヒヨドリジュウゴ



イシミカワ



ザク目



クヨ



クサギ



ギカラスウリ



クマナシ



ピラカシラ



アケビ



カキ



ガラスウリ



クヌギ



カリン



サンゴジュ



ヨブシ



トウキエヌミモテ



クリ



シラカシ



マテバシイ



クワカネモテ



## 「自然誌型」 バードウォッチング のすすめ

この冬、初心者の方もベテランの方も「自然誌型」野鳥観察にチャレンジしてみたいかがですか。楽しさは保証いたします。

彩湖でのバードウォッチングの最適季節は冬です。風の弱い良く晴れた朝、ちょっと厚着をして彩湖の岸辺まで出かけてみましょう。

今回お薦めするのは、「自然誌型」バードウォッチングです。ただ鳥を見るだけでなく気づいたことをメモする方法。準備として新たに用意するものは小さい手帳とペンだけです。特徴的な羽の色、エサの取り方、歩き方、見られた環境など、図鑑には書いていない特徴をどんどんメモります。

家に帰ったら手帳を見ながら、その鳥の姿を思い出してください。今まで感じなかった鳥の生活が立体的に浮かび上がってきます。そしてこの手帳が毎年増えていくことにより、自分だけの「自然誌ノート」が徐々に出来上がっていくはず。この喜びと満足はとても大きいと思います。

さて、新たなる観察視点に納得していただけたら、彩湖の冬鳥たちの時期ごとの見所を紹介しましょう。

彩湖自然学習センター  
生物調査員 寿原 淑郎



カラシダカ

### 晩秋から初冬（10月から11月）

遙か北の国から冬鳥たちの到来の季節です。そして山で子育てを終えた鳥たちも厳しい寒さを逃れて平地での保養生活に舞い戻ってきます。冬枯れの彩湖周辺の原野は一気に賑やかになります。ゆっくり歩き回ってみましょう。アシの茂みの中からチットつぶやく声が聞こえたら少し離れて待ってみてください。やがて、アシの穂先や木々の枝先にスズメより少し大きいくらいの鳥がエサを探しに出てくるはず。ホオジロ・カシラダカ・アオジ・オオジュリンなどの地味な小鳥たちです。この仲間は姿が似ていて識別には少し手間取りますが、良く観察すると行動が異なります。アシの茎に潜むカイガラムシを食べるオオジュリン、少し開けた草原を好むホオジロ、あくまでも茂みから出ようとしないアオジなど種ごとの特徴を記録すると良いでしょう。

### 冬将軍到来（12月から1月）

寒さとともに鴨たちが勢揃いしてカラフルな彩りのファッションショーを繰り広げてくれます。マガモの金属光沢のある深いグリーン。ヒドリガモのひときわ輝く額のクリーム色、白い体に赤茶色のマークが映えるハシビロガモ。また、シンプルだけど気品のあるオナガガモのデザインは神様の造形のセンスの良さが伺える傑作です。



オナガガモ



ノスリ

### 凍てつく原野（2月から3月）

野山で手に入るエサが最も少なくなる季節です。生き残るために鳥たちが必死に生活する姿が見られます。猛禽（タカ類）たちの狩が見られるのもこの季節が多くなります。彩湖で良く観察されるのは、ハヤブサ、ノスリ、オオタカ、チョウゲンボウです。しかし、狩がいつも成功するとは限りません。確率は20%も無いようです。昨冬は若いオオタカが狩に失敗して水死してしまいました。生きるのも死ぬのも紙一重の差なのです。



## ◆豊かな心をはぐくむ自然体験活動

### \* 光り輝く草原で…

彩湖のまわりには、水辺の自然、比較的背丈の高い草原、屋敷林と豊かな自然が広がっています。その自然の中で、鳥や昆虫、そして魚たちが暮らしています。この野生の生き物たちとのふれあいは多くの子どもたちに感動を与えています。

草陰にそっと咲く花にしゃがんで優しく話しかける子どもやザリガニをつり上げたときの子どもの表情、バッタを夢中で追いかける姿。そこには好奇心が満ちあふれ、光り輝く子どもの姿があります。生き物とのふれあいが少なくなってきた今、そこには私たち大人が当然のこととして経験してきた姿と重なってきます。生き物の死と向かい合ったときに感じる生命の尊さや生き物の巧妙な生き残りかけた工夫など自然の豊かさや奥深さを感じることが出来ます。

観察だけではありません。オギの穂を使ったのミミズクづくり、水鉄砲や竹とんぼづくり、葉っぱのしおりづくりなど、自分で工夫しながらものを作るという経験。それらはきっと今の子どもたちにとってはとても貴重な経験となるのではないのでしょうか。そして、環境に思い至る機会や自分を振り返る機会ともなるでしょう。

無限の可能性を持つ子どもたちと光り輝く草原を探検してみたいかがでしょうか。必ず大事なものを見つけてことができるでしょう。そして、それを輝かして子どもは大きく成長するのではないのでしょうか。



## 彩湖周辺散策

彩湖周辺には荒川の河川改修のために移転をした民家が数十戸あったが、その民家の屋敷林が今でも残っている。

屋敷林は季節風や洪水から民家を守り、防火の役目を果たしてきた。樹木は、主にシラカシ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、ツバキ、シュロ等で、他に竹林もある。

外側から眺めていると、「屋敷林の中に入ってみたいなあ。」、「中はどうなっているのだろう。」と好奇心にかられてくるが、足を踏み入れるのには少々勇気がいる。「怖いなあ」と足がすくんでしまう。というのも、その中は四方に枝葉を伸ばした巨木が多くうっそうとしていて、しかも、屋敷林の中は小さい手が入らないので、野鳥が運んだ種から発芽した木々がそここに生い茂り、昼間でも薄暗いからかもしれない。

人には入りがたいところだが、植物や昆虫などの生き物にとっては、まさに好都合な場所である。夏はカブトムシ・

## 彩湖自然学習センター講座

土・日曜は自然の中での活動を!

### ススキの穂でミミズクをつくらう とも自然観察教室

みんなでオギやススキの穂を採集して、さあーミミズクづくりの始まり、始まり。道に座り込んで「もっとふっくらさせたいね!」などと、工夫しながら制作しました。できあがったオリジナル作品を手に、「これかわいいね」、「かっこいいね」と品評会がとてもにぎやかでした。



### 原っぱで虫をさがそう

とも自然観察教室



コオロギなどが鳴き出した秋の一日、センター周辺の草原で秋の昆虫ウォッチング。草陰から大きくなったショウリョウバッタが飛び出したり、空中をウスバキトンボが飛び回っ

ていました。「ウスバキトンボは大陸から海を超えて飛んでくるものいるんだよ」と言う講師の説明に、子どもたちは「すごいな、すごいなあ」と目を輝かせていました。

### トダスゲをまもろう&しかけ とも自然クラブ

戸田市で発見され、一時は絶滅したかと思われたトダスゲをミニ彩湖周辺で大事に育てています。そのトダスゲを守るためにみんなでオギやセイカアワダチソウの草取りをしました。

その後、クラブの子どもたちとペットボトルでしかけを作り、ザリガニ取りをしました。自分のしかけに入ったザリガニを見て、みんな大喜び。



## 〈屋敷林〉

クワガタ・カナブンなどの虫が樹液に集まり、ウグイス・コガラ・ムクドリなどの鳥が羽を休める。夜はタヌキやイタチなどの活動の場となる。

この林の中を探検するときは一人は避けて数人で行く方がいいかもしれない。その時には、クモの巣やヤブ蚊、スズメバチ対策をお忘れなく。





## ▶ 彩湖から見える山々・近景



猛暑が続いた今年の夏も今では遠い過去のものになった感じで秋を迎えました。彩湖畔のコブシの梢ではモズがしきりに鳴いています。彩湖の繊細の空にオオタカ、ノスリ、チョウゲンボウなども山から平地へ下りてきました。

日ごとに空は澄み渡り朝日に映えた丹沢山塊、奥多摩、秩父の山波の上に一際高く富士山が冠雪を輝かせています。北の方向に目をやりますと、谷川連峰、浅間山が、その手前には榛名、赤城山がみられ続いて奥日光の白根山、男体山も間近に見ることができます。

彩湖岸のヨシ原は銀色の穂が波を打って輝き、セイタカアワダチソウは大きな群落をつくり黄色の花の絨毯を敷きつめています。その花には、アカタテハ、カタテハ、ミツバチ、ハナアブなどの虫たちが冬越しの準備のための吸蜜に余念がありません。漏水になった彩湖には北から飛来したヒドリガモ、ヨシガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カンムリカイツブリなど多くの冬鳥が見られるようになりました。彩湖には秋から冬にかけて観察できる野鳥は50種類にもなり埼玉県南部での探鳥地としては最も楽しい場所となっています。

## もよおしのご案内

- **自然観察会** (一般・親子対象)  
～彩湖周辺の植物・昆虫等の観察会～  
・12月19日(日)  
・(2005年)1月6日(休)
- **野鳥観察会** (一般・親子対象)  
～彩湖周辺の野鳥を観察する～  
・11月28日(日)・12月12日(日)  
・(2005年)1月23日(日)・2月27日(日)・3月27日(日)
- **こども自然観察教室** (小・中学生対象)  
～彩湖周辺の植物・昆虫等の観察会～  
・11月27日(土)・12月11日(土)  
・(2005年)3月26日(土)
- **こども自然クラス** (小・中学生対象)  
～継続して自然体験・奉仕の活動を行う～  
・11月13日(土)  
・(2005年)1月22日(土)・2月26日(土)

※開催日・内容等変更する場合がありますので、電話にてご確認ください。

## 彩湖自然学習センター

〒335-0031 埼玉県戸田市大学内谷2887番地  
TEL 048-422-9991 FAX 048-422-9993  
URL <http://www.city.toda.saitama.jp/sosiki/kyoikuiinkai/saiko/>  
E-mail [kyo-saiko@city.toda.saitama.jp](mailto:kyo-saiko@city.toda.saitama.jp)

※この彩湖はより自然にやさしい再生紙を使用しています。

## ご利用案内

- **開館時間** / 午前10時から午後4時30分まで
- **休館日** / 毎週月曜日(休日を除く)  
休日の翌日(土曜日・日曜日・休日を除く)  
館内整理日(毎月末日)(土曜日・日曜日・休日を除く)  
12月28日から翌年の1月4日まで
- **入館無料**

## 交通案内

- **お車ご利用の場合**  
・東京外環自動車道 戸田西ICより約0.5km  
・新大宮バイパス 美女木交差点より約1km
- **電車ご利用の場合**  
・JR南浦和駅西口から武蔵浦和駅経由下笹目行きバス「修行日」バス停下車徒歩8分

